

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400499		
法人名	有限会社夢家族		
事業所名	グループホーム夢家族・三ツ柳 (第一)		
所在地	岐阜県羽島市正木町三ツ柳字2丁野184		
自己評価作成日	令和5年10月16日	評価結果市町村受理日	令和6年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170400499-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和5年11月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

第一	担当制になった事で職員一人一人の役割の取り組みが活かせるようになった。消極的だった利用者様が自分の想いを意欲的に話しかけてくれたりと生き生きと過ごし良い関係である。「安心感」の理念をモットーに利用者様、ご家族様と共有しあたたかい介護に努め活かし繋がっている。
第二	「自立と尊厳を認め笑顔を引き出す。」を今期の事業所テーマに取り組み最低限の声掛けにし自立と意思決定をしてもらい1日中笑顔と笑い声の絶えないようにぎやかな空間作りに力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平屋建てのホームの周囲には田畑が広がり、法人のコットン畑などもある。自然豊かな環境の中で散歩をしたり、プランターでの野菜作り、干し柿作りなど、利用者が楽しみながら、日々安心して過ごせるケアに取り組んでいる。法人として職員の資格取得をすすめており、より専門的なケアを実施できるよう励んでいる。近隣には同一法人の別事業所があり、法人間で連携を図りやすい体制がある。担当制を用いることで、より利用者とその家族、職員との関係は密となり、毎月、職員が送る利用者の日々の様子を書いた手紙は、家族に好評である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果(第一)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼や夕礼ではスタッフ一同理念の音読、夜勤帯から日勤帯へ日勤帯から夜勤帯へと申し送りし共に共有し実践し取り組んでいる。	フロアには法人理念が掲示されている。また、申し送り時に唱和をすることで、職員の共通意識に繋げている。キャリアパスの一環で、理念についてのテストを行い、確認しながら支援の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中地域との日常的交流は薄く令和5年9月にはいり少しづつ交流できるようになってきた。	コロナ禍以前は、地域住民を招いた感謝祭を行っていた。最近、子ども神輿が復活し、利用者代表が、子どもたちへ寸志を手渡している。また、野菜の差し入れ等を受けるなどの付き合いも継続されている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で会議もできない時期もあったが書面では報告。7月に入り開催。意見交換、助言など頂きサービス向上にいかしています。	運営推進会議開催時には、すべての家族に案内を送っている。最近の参加は市役所と法人職員になっており、地域代表の区長や民生委員の参加がないことに課題を感じている。会議では行事や委員会などの報告がなされている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護認定調査の面談の日時の対応、生活保護受給者の方日常生活(電話対応)を伝えながら取り組んでいる。	高齢福祉課以外にも、防災関係部局とも連携を図り、BCP策定などにおいても助言を得ている。介護相談員の訪問はコロナの影響で停止していたが、今後、再開予定である。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修に参加。ミーティング等で課題等を話し合い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について、毎月、法人全体で話し合い、共有しながら理解を深めている。現在、利用者の安全の為に、4点柵や安全ベルトを使用している人もあるが、職員は少しでも外す時間が短くなるよう支援方法を工夫している。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し意見交換をし、見過ごすことの無いように見守り、見極めに努めている。	法人全体で委員会を毎月開催し、虐待防止について話し合い、共有を図っている。虐待防止の研修の中で、職員のストレスケアやスピーチロックについても学んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1名の方が成年後見制度を活用している。必要時には個々に対応支援している。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時文面にて不安や疑問点を傾聴し理解納得に十分話し合いに努めている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当制になった事で担当者会議に、ご家族様・利用者様・法人代表・ケアマネ・担当の職員・管理者と意見交換状況報告共に情報共有し反映している。	法人として、毎年、家族アンケートを実施し家族からの意見を受け止めている。毎月、請求書と一緒に、担当職員が直筆で利用者の様子を書き、家族に送付している。面会は時間の制限を設けているが、居室での面会を可能としている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のミーティング・朝礼・夕礼の申し送り主任会議等で意見交換している。意見箱も設けている。代表者は面談で意見を聞き向上に努めている。	毎日の朝礼や夕礼時において、意見交換がなされている。また、各ユニットには鍵付きの意見箱が設置されており、職員が本部に直接考えを伝える仕組みがある。定期面談を通じて、職員が個々に意見を具申することもできる。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	人員不足になった時でも速やかに対応。有休100%を目指すよう整備。産休にも力を入れて職場環境に努めている。又、誕生日には花束のプレゼントでお祝いしてくれる。	産休や育休、子育て支援のため、勤務時間の短縮を実施している。仕事と家庭の両立をサポートする岐阜県ワーク・ライフ・バランス推進企業に登録されている。職員の休憩室が完備されているが、靴を履き替えて移動をする必要があるため、利用が進まない課題がある。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者自身も研修に参加、委員会の取り組みも意欲的に進めている。キャリアパス研修テスト面談にも力を入れている。(防災委員・介助力向上・レクリエーション・接遇委員)	キャリアパス研修を通じて、介護技術やビジネスマナーなど、職員が学ぶことを目的にテストなども行っている。また、資格取得の奨励を行うことで、より専門的なケアが実施できる支援体制作りに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	代表者は意欲的に勉強会に参加し活発にキャリアパス研修会・委員会・木鶏会・部活に幅広くサービスの質を向上させていく取組みをしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様ができる事をなるべく行って頂けるよう促し、新聞たたみや洗濯ものたたみ等職員と一緒に行動して支え合うもの同士の関係作りに努めています。また、時事ニュースや職員の興味のある話(WBC)等利用者様と盛り上がります。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や様子の中で得た情報を共有しモニタリングや担当者会議に本人様や家族様の意向や思いを聞きケアプランを作成しています。	アセスメントツールを活用し、本人・家族の意向を把握している。日々の会話や表情から読み取った情報は職員間で共有し、担当者会議を通じて家族にフィードバックされケアに活かされている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当制を設け毎月ミーティングの際利用者様、個々の状況確認をし支援方法を考えています。	担当者が把握した情報をもとに、毎月のミーティングがなされケアプランに反映させている。必要に応じて医療職からの言葉をプランに落とし込み、多職種が連携するプランとしている。モニタリングはケアマネジャーを中心に行っている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や申し送りノートを活用し個々の体調や心身の変化について検討し必要時には介護計画を見直しをしています	タブレット端末を活用しながら、フロアでの利用者の暮らしぶりやケアの様子を撮って記録を残している。業務日誌や申し送りノートなどは基本手書きにて記録し、職員間で共有を図っている。IT化について法人として検討を重ねている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様の希望に応じて出来ることは柔軟に対応できるよう心がけています。	利用者は、職員と一緒に必要な日用品を買いに出かけたり、家族と一緒に外出している。コーヒー好きな利用者は、自分でドリップコーヒーを楽しむこともある。本人の希望を聞き、臨機応変に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響で地域の方との交流がなかなか出来ずらい状況ではありますが少しずつ交流できるようにしています。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様家族様の希望を伺ったうえで以前からのかかりつけ医による訪問診療が受けられるようにしています。	入居時に、かかりつけ医の選択について、本人・家族の希望に応じることができる旨を説明している。訪問診療は概ね月2回ほどである。他科受診が必要な時は家族対応を原則としている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	家族様や病棟担当看護師等と連絡を取り合い情報交換を行っています。入院時は情報提供書を渡し共有できるようにしています。	病院のソーシャルワーカーと連携し、入院時は介護サマリーを提供している。状態変化などがある場合は、退院前カンファレンスに職員が参加をすることで、スムーズに生活が再開できるよう支援をしている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や担当者会議時に「終末期の希望」を伺っています。重度化した場合は再度確認をし医療職家族様と密に連携をとっています。	ホームとしての看取り指針を設け、入居時や看取り開始時に家族の意向を確認している。現在、エンディングノートを活用した終末期の介護について考えるACPを推進していくことを検討している。	エンディングノートを活用しながら、利用者が終末期の介護や医療について、家族や関係者と共に考えていくACPIに取り組んでいる。今後も、この取り組みを充実させ、利用者が安心して生活が送れるよう期待したい。
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがあり急変や事故発生時に対応できるようにしています。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の実施2カ月に1度の防災委員を開催し災害時の避難方法や災害時の調理方法についても実践しています。	法人としてのBCP策定は、すでに完了している。ホームの近くに河川があるが、平屋建てという構造上、水害時の垂直避難は出来ない。近隣のアパートの2階に2室を借り、避難できる場所を確保している。アパートへの避難訓練も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いに気を付け、パット交換トイレ使用時ドアを閉め、タオルを掛けるなどプライバシー尊重を心掛けています。	常に、利用者一人ひとりの人格を尊重し、支援している。接遇研修を充実させることで、日頃の言葉かけについても、職員の意識化を図っている。利用者の誕生日にはケーキを用意し、皆で祝っている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や要望に添えるよう傾聴し自己決定ができるよう支援している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースにそった支援に努めている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	イベント、誕生日、外食(ドリップコーヒーを楽しまれる方もいます。)郷土料理、嚙下機能を大切にその人にあつた形態を提供している。おやつ作りも職員と一緒にしている。	ご飯と汁物はホーム内で作り、主菜・副菜は宅食サービスを利用している。誕生日や季節のイベント等で、旬なものを取り入れることで食事が楽しめるよう配慮がなされている。地域住民から、食材の差し入れを受けることもある。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量の少ない人は声掛けをして1日の水分量を確保できるように支援している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前の発声練習、毎食後本人様の力に応じたハミガキや口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。自分で出来る人は見守りで支援し、手伝いが必要な人は職員が対応している。入れ歯の調整などは、必要に応じて訪問歯科や本人のかかりつけ歯科につなげている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排尿、排便定期的な確認と声掛けをし、誘導。日中はトイレ使用。夜間はPトイレ使用。人に合った自立への支援に努めている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴を楽しんで頂けるよう入浴剤でゆったりして頂き体調・個々に応じた支援をしている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	テレビ・ラジオ・アルバム・雑誌・携帯持参の方もいる。家族と話している人、音楽を聴いている人と楽しまれている。居室内の明るさも調整し支援している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋には必ず確認し理解している。個々の薬入れを設置し保管。変化があれば主治医に指示をあおぐよう努めている。	薬剤情報は個人ファイルで管理し、職員がいつでも確認できるようにしている。薬の変更があった場合は効能を確認し、利用者の症状に変化等があれば、主治医や薬剤師に伝えて指示を仰ぐなど、連携を図っている。服薬支援についてのマニュアルを整備している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみ・工作・掃除・歌・喫煙(タバコライターはホームで保管)オーガニックコットンの収穫、種取、野菜作り、楽しみごとに支援している。	職員は、個々の希望を把握し、それぞれの得意なことや楽しみとしていることを尊重している。自分の洗濯物を畳み居室へ持って行く人、自分で居室の掃除をする人など、日々、役割を持ちながら生活を送れるよう支援している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外気浴・散歩・喫茶店・家族様と外食・お盆にお墓参りへ出掛ける。戸外に出かける支援に努めている。	日頃は近所を散歩したり、職員と一緒に買い物にも出かけている。家族と外食に出かける人もある。利用者は、散歩を兼ねて近くにある同法人の別事業所まで行き、お茶を飲んだり、知り合いの利用者に会うなどしている。	

岐阜県 グループホーム夢家族・三ツ柳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	衣料嗜好品・日用品等要望があればご家族様にも協力を得ています。ホームでも代行支援に努めている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	2名の方が携帯を所持しています。ご家族様とお話しています。毎日ご家族様より電話があり楽しみにされています。電話の要望があれば対応しています。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングのソファでテレビを見たり、季節の花・カレンダー・ホーム新聞等でホーム内もゆったりとした広さであり温度、明るさも調節して居心地よく過ごせるよう工夫しています。	ユニットごとに雰囲気の違い、利用者それぞれが過ごしやすいよう工夫している。玄関には、利用者が作成した季節の作品を飾っている。オープンキッチンとなっており、調理中の匂いが漂っている。今年度中に、1ユニットの浴室を個浴から機械浴にリフォームする予定である。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士で歌を唄ったり自慢の工作等見せ合い良い関係であり楽しく過ごせるよう工夫に努めている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、ラジオ、カレンダー、家具家電、神棚と居心地よく過ごせるよう工夫している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を活かし自立した生活がおくれるよう工夫に努めています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400499		
法人名	有限会社夢家族		
事業所名	グループホーム夢家族・三ツ柳 (第二)		
所在地	岐阜県羽島市正木町三ツ柳字2丁野184		
自己評価作成日	令和5年10月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和5年11月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(第二)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼・夕礼にて夢家族理念を唱和しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今期より地域の子供神輿など少しずつ交流を開始しています。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	防災、身体拘束、看取りの状況報告など共有しケアプランにて取り組んでいる。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所職員と生活保護者の在居確認や連絡連携を行っている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室のカギとベット柵はありません。玄関のみ施錠しています。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介助力向上委員会で研修をし現場で言葉のかけ方等も注意・徹底しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身寄りのない方やご家族様の要望を積極的に受け、第三者の民間、公的含め後見制度を取り入れ実践しています。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭で説明すると共に、随時電話連絡で説明しています		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様アンケートを送付。担当者会議でご家族様から直接意見を頂き反映しています。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法改正時など勉強会告知。月1回のミーティングで常に提案修正を实践。意見箱も設置頂いた意見を共有しています。ミーティング、朝礼・夕礼での話し合いもおこなっています。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	有給取得率を100%を目指しています。また、職員の子育て支援の為勤務時間の短縮を実施。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	委員会の開催や資格取得を積極的に会社負担し推進しています。社内ではキャリアパスの実施、テスト、自己評価他者評価、アセッサーに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修に参加するように呼びかけ、少しずつ参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様ができる事をなるべく行って頂けるよう促し新聞たたみや洗濯ものたたみ等職員と一緒にするなどして支え合うもの同士の関係作りに努めています。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や様子の中で得た情報を共有しモニタリングや担当者会議に本人様や家族様の意向や思いを聞きケアプランを作成しています。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当制を設け毎月ミーティングの際利用者様、個々の状況確認をし支援方法を考えています。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や申し送りノートを活用し個々の体調や心身の変化について検討し必要時には介護計画を見直しをしています		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様の希望に応じて出来ることは柔軟に対応できるよう心がけています。		

岐阜県 グループホーム夢家族・三ツ柳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響で地域の方との交流がなかなか出来ずらい状況ではありますが少しずつ交流できるようにしています。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様家族様の希望を伺ったうえで以前からのかかりつけ医による訪問診療が受けられるようにしています。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	家族様や病棟担当看護師等と連絡を取り合い情報交換を行っています。入院時は情報提供者を渡し共有できるようにしています。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や担当者会議時に「終末期の希望」を伺っています。重度化した場合は再度確認をし医療職家族様と密に連携をとっていきます。また、エンディングノート、人生会議への取り組みを始めました。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習の受講。また、緊急時対応マニュアルがあり急変や事故発生時に対応できるようにしています。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の実施2カ月に1度の防災委員を開催し災害時の避難方法や災害時の調理方法についても実践しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今期の事業所目標を自立と尊厳として取り組んでいます。 居室の充実や目線の高さの会話、命令口調の禁止の実践対応。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に声掛けにて意思決定に心掛け本人の希望を尊重することを実践しています。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日以外は今日は何をしますか？と声掛けし1日を過ごして頂いています。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備と片付けは数名が実践しています。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医、訪看の指示を仰ぎながら実践しています。水分摂取量もゼリーなど使用しています。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後はうがいハミガキを実践しています。		

岐阜県 グループホーム夢家族・三ツ柳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	夜間でもトイレ誘導を行い日中は間隔を把握して声掛けを実施しています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	現在は曜日・時間を決め実施しています。個々の入浴支援は行っていません。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	常に自室で休むことができます。日中は極力起きて頂けるよう声掛けをしています。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医と連携して効能、症状、変化を確認しています。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の担当制にし職員が個々に支援したり全体で支援したりしています。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の散歩等実施しています。		

岐阜県 グループホーム夢家族・三ツ柳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今の利用者様は金銭管理している方はおりません。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	積極的に行いご家族様に電話、手紙を送ってもらい協力してもらっています。また、利用者様にも年賀状を書いてもらっています。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	案内掲示物は少なめにしフローアーに絵を飾るなど安心できる共有空間づくりを実践しています。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の位置やソファの位置など常に職員で話し合い工夫に努めています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様と常に連携し衣類等も含めなじみの物や写真を配置しています。利用者様の好みの家具をそろえて頂き安心できる所室作りに努めています。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各個人の生活歴職歴を考慮し、ケアプランに取り入れながら自立と尊厳を実施しています。		